

二つの特報部

と説明する。
 万佐代さんは報告書を受け
 取った際、国の担当者か
 ら「今後に役立てていく」と
 言われたことを覚えてい
 る。当然、全国各地で活用
 されているものと考えてい
 だ。憎さんは怒りを抑える
 ことができない。「報告書
 を全国に配ることが恥ずかし
 うことになったから、直視
 オナートにできるか、直視
 しようとしたら、直視
 再び若い命が奪われること
 になったのではないか」
 実際、日本の登山教育の
 現場では、もっと以前から
 同様の事故を繰り返してい
 る。
 一九八九年三月には長野
 県白馬村の北アルプスの尾

本音の コラ



山口 俊二 さん

北朝鮮情勢について、
 危機の深刻化を回避する
 ために日本政府も最大の
 努力を払ってほしい。
 しかし、安倍政権は、
 森友学園疑惑や閣僚の暴
 言など、国内の厄介な問
 題を覆い隠すために北朝
 鮮危機を利用してはいる。
 そして、テレビも連日北
 の脅威をいれどもかど伝
 えている。この政権が危
 機にまじめに取り組んで
 いるとは思えない。
 政府は二十一日に、日
 本がミサイル攻撃を受け
 たときの「避難」の方法
 を内閣官房のホームページ
 に掲載した。いわく、
 警報が発令されたら頭丈
 な建物に入り、窓から離
 れるのだ。これで国民
 の安全を確保したつも

まじめにやれ

りだろうか。
 このニュースを見て、
 桐生悠々の「東防空大
 演習を唾」という批評
 を想起したのは私だけで
 はあるまい。悠々は、「
 九三年、当時の軍部が
 仮想敵国の空襲を想定し
 た演習を行ったことにつ
 いて、これは軍人の自己
 満足でしかない」と喝破し
 た。そして、現代の戦争
 では「空襲されたもの勝
 であり、空襲されたもの
 の敗である」と書いた。
 ミサイルの時代にこの指
 摘はさらに当てはまる。
 大都市と原発にミサ
 ルを撃ち込まれたら日本
 は壊滅する。避難しても
 無駄である。ミサイルを
 撃たせないことが政府の
 任務である。しかし、危
 機をおおるばかりの安倍
 政権は、戦争の現実認識
 を欠いていた戦前の軍部
 から進歩していない。
 (法政大教授)

崩への理解脆弱 ■ 繰り返さ

根で奥山岳総合センター主
 催の冬山訓練中に、五人が
 雪崩に巻き込まれ、奥立高
 校教諭酒井耕さん(当時)
 てくれたら、事故が起
 きたら、(二)死にす
 る事故が起
 きていた。耕さんの母三重
 遭難事故でも同じだ。
 だはずなのに、(三)主
 催者相手に損害賠償訴訟を
 提起し、(四)九月十一日、引
 率者の調査不足や判断の誤
 りなど真側の過失を認める
 判決を勝ち取った。
 三重さんを訴訟に駆り立
 てたのも、「原因の特定は
 不可能」「自然災害で不可
 抵抗」と責任回避に終始す
 る真側の姿勢だった。
 NPO法人「百」
 ユーザー(後)の
 今回の事故は、
 動き出すと、
 れるものがある

た「週刊新潮」だが、
 二頁に「
 いた意欲がのどろどろ
 面から伝わっている。最
 新号から古市憲慈さんの
 二本の連載が始まったの
 だが、記事が横組みとい
 う異例のレイアウトだ。
 その5月4・11日の
 目玉のひとつは、四月二
 十七日に那覇地裁で判決
 の出た元女優・高樹紗耶
 被告の独占手記だ。専休
 の関係で発売が一日も
 り、判決の前日に手記を
 発表。これは首都圏不審
 死事件の木嶋佳苗被告の
 最高裁判決前日の手記発
 表と同じパターンだ。
 新聞・テレビで判決が
 報じられるのにあわせて
 手記を掲載しようという
 編集方針で、それが続く
 組んでいることを示すも
 のだ。
 高樹さんの手記は、速

2017.4.30

二つの特報部